



コミュニティ・スクールだより

今年度も、たくさんの地域学校協働活動が行われました。また、各校とも計画的に学校運営協議会を開催し、内容の工夫・改善に努めました。2つの取組事例を紹介します。

船木地区社会教育推進委員会による「船木大橋架け替え工事学習会」



3月10日（火）、楠中学校の1年生が船木大橋の架け替え工事を見学しました。この学習会は、社会教育推進委員会が、キャリア教育の一環として土木・建設業界で働くことへの関心を高めてほしいと、山口河川国道事務所や地元請負企業の協力を得て行ったものです。まず、船木大橋の歴史や土木技術士について、さらに、架け替え工事の必要性や工事の進捗状況などを教室で学びました。その後、場所を工事現場に移して、AIを使った最新の土木技術やコンクリートをダイヤモンドワイヤーで切る作業を見学しました。生徒からは「自分も将来、人を笑顔にする仕事に就きたいと思っている。こういう仕事もいいなと思った」という感想が聞かれました。

この取組は、生きたキャリア教育と生徒の「郷土愛」の深まりにつながる、意義深い学習となったようです。

児童生徒が参加した神原中学校区合同学校運営協議会の開催

3月3日（火）、児童生徒が参加して、第2回神原中学校区小中合同学校運営協議会が開催されました。各学校の今年度最後の学校運営協議会はすでに2月中・下旬に実施されており、成果や課題、来年度の取組に関する協議を済ませて開催された合同学校運営協議会です。冒頭のあいさつで、代表会長から“小学生も中学生も地域の構成員である。縮こまることなくしっかり発言しよう”との呼びかけがあり、「今、神原地区に住んでいて感じていること」をテーマに、10グループに分かれて協議が行われました。

事前に考えたメモを見ながら、一生懸命に自分の考えを述べる小学生の姿が印象的でした。また、地域の方の小・中学生に期待する思いも聞くことができました。今後、中学生が各グループで話し合った内容を持ち寄って、取組を具体的に考えていくそうです。来年度の開催が今から楽しみです。

